

播州真宗門徒 本徳寺世話役

追弔法要案内

九月七日午後一時

執行於本堂



追弔法要のための内陣荘厳



この法要では五百年來の播州門徒の念仏相
続と本徳寺護持の思いを表し、仏説阿彌陀經が
読誦されます。
仏陀の舍利佛への説法を、私の問題と正面から
捉え自らの「いのち」の本性を明らかにすると共
に、無明の迷いから浄土の悟りに至る大きな命の
流れに気付かせていただきます。
読經中には、先達の遺徳を偲び、共に仏徳への
讃歎を合掌・礼拝にこめてお焼香を致しましょう。
ご法要を縁に後生の一大事を仏様の説法に聞い
ていきます。迷いの娑婆世界では自分の責任を
先祖の責任にすり替えてしまう、とんでもない過
ちを犯しがちです。
先祖の供養を縁に、今を生きる私が先祖と共に
阿彌陀仏の大慈・大悲に合掌するという真宗の
正しい先祖觀を学びましょう。



娑婆の現行は余りにも利那的で残酷です。一時の
歡びは次の苦しみに繋がっていきます。若い躰を
享受できる時間は短く、「老・病・死」は生まれ
たときから始まります。

人は自らの命を生きますが、命の依って来る由
縁と逝く処に疎いものです。非業の殺気は時を選
ばず。よつて心底落ち着く処を知りません。揺れ
動く心境に右往左往して最後は老病死のどん詰ま
り、ただ骨になるばかりです。この根源的原因を
仏教では「無明」といいます。

過去において数知れない先祖・先達が信心の智
慧を頂いて、この過酷な無明の生老病死を貫く仏
の命に目覚めて来られました。

先に行く者は後を導き、後の者は先を弔うとお
り連綿と続く仏の智慧の相続が私を通して浄土真
宗の追弔会をかたちづくって来たのです。